

テーマ：縄文遺跡群（実践校）

胆振管内 豊浦町立豊浦小学校

■本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育み、縄文遺跡群への理解を深めるため、総合的な学習の時間において入江・高砂貝塚や入江貝塚館の見学を行うとともに、豊浦町の学芸員による講話を通して、縄文遺跡群について探究的な学習を推進しました。

■ふるさと教育・観光教育の実践内容

①単元の目標

縄文遺跡群について見学及び調べ学習などを通して、自分たちの住んでいる地域や北海道の歴史や文化についての愛着や誇りをもち、縄文遺跡時代の人々の暮らしや文化について理解するとともに、縄文遺跡群を身近なものとして捉え課題を見付け、課題に応じて情報を収集し、よりよい方法で解決することができるようにする。

②取組の様子

(1) 課題の設定

社会科で学習したことを基に、縄文時代の人々の暮らしや文化について興味・関心をもち、探究的な課題を設定しました。

(2) 情報の収集

ゲストティーチャーを招聘して、豊浦町の遺跡で発掘された出土品に実際に触れたり、北黄金貝塚 VR ツアーを体験したりしました。また、入江・高砂貝塚や入江貝塚館の展示物を見学したり、豊浦町の学芸員の話の聞いたりして、様々な視点から情報を収集しました。

(3) 整理・分析

見学学習等を通して学んだ内容について、社会科で学習した内容と比較しながら情報を整理・分析することにより、縄文遺跡群について理解を深めました。

(4) まとめ・表現

整理分析した内容を、プレゼンテーションアプリを活用して、同年の児童に分かりやすく伝えるようにまとめ、縄文遺跡の見学学習に係る発表会を行いました。



【入江貝塚の見学学習の様子】



【北黄金貝塚VR体験の様子】



【発表資料を作成している様子】

③「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

- ・一人一人が課題解決に向けて学習を進めることができるよう、課題設定の場面において、これまでの学習内容を確認したり、解決の方向性を見通したりする場面を位置付けました。
- ・課題について、理解を深めたり、新たな課題解決の視点を捉えたりできるよう、情報の収集の場面で、オンライン会議ツール等を活用し、適宜意見交流・協議をしました。

■実践の振り返り

- ・総合的な学習の時間を中心に各教科等の学習内容と関連付けるなど、カリキュラム・マネジメントを図ることにより、自分たちの住んでいる地域や北海道の歴史や文化についての愛着や誇りをより一層育むことができました。
- ・1人1台端末を効果的に活用し、他校の児童、保護者や地域の方に伝えるなど、成果を発信する手立てを工夫することで、ふるさとに対する愛着や誇りをより一層育むことが期待できます。